

第2章 先行研究について

1, 「祝！九州」と「統合」から考える鉄道の性質

2011年3月12日、九州新幹線が全線開通した。前日に発生した東日本大震災の影響で、祝典イベントは軒並み自粛されることとなったが、その中の一つに全線開通にあたって作成された「祝！九州」¹というCMがあった。このCMは、七色のラッピングを施された新幹線が鹿児島中央―博多駅間を走行し、通過時に沿線の人々が思い思いの形で自由にエールを送るというものであった。

東日本大震災で被災した人々だけでなく、日本全体を勇気づけるものとしてこのCMは大きな反響を呼ぶことになったが²、ここで注目したいのは鉄道と先に定義した「統合」との関係である。天野祐吉が「沿線からかけつけた人たちがこのドキュメンタリー風のCMの主役なのだ³」と言っていることからわかるが、このCMには新幹線によって沿線の人々が「主役」として「九州新幹線全線開通」という共通の経験をすることになった。こういった動きは九州内だけに留まらず、このCMが世に出た時期には、2010年12月4日の東北新幹線全線開通も合わせ、新幹線によって列島が一本のレールでつながることとなったため、「列島をつなげるものとしての新幹線」という体験を多くの人びとの間で共有させることとなり、「自らを、文化・言語などを共有する一つの国民共同体の成員として規定すること」が可能になったと考えられる。つまり、鉄道が共同体意識を昂揚させ、人々に「統合」をもたらすものであるということができるようになる。

しかし、この考察は、あくまで推測の域を脱しないものであり、問題設定をする前に今一度確認しておく必要がある。そこで、先行研究として鉄道と「統合」に関するものをいくつかピックアップし、それを紹介する

¹ ホームページは見るできないが、CMについては各種動画サイトで見る事ができる。

² 『朝日新聞』 2016年4月23日 朝刊

³ 『朝日新聞』 2011年5月11日 朝刊

ことを通じて、上記の九州新幹線にみられるようなことが言えるのかを検討することとする。

2. 先行研究として本稿で取り上げるもの

先行研究として本稿で扱うものは、海外の事例として 19 世紀に建設されたアメリカ大陸横断鉄道、近代化を目指す中での清の交通政策、また日本の鉄道登場前の江戸時代の 3 つを取り扱い、交通と統合というより大きな視点から俯瞰する。その上で明治期日本における政府側・民衆側両者と鉄道の関係について見ていく。以上を通して、鉄道が民衆に「統合」をもたらすものであるかどうかを確認する。